

■大垣市（おおがきし）

人口 160,812 人 面積 206.57 km²

【マグダーツ】

【車椅子レクダンス】



大垣市は、日本のほぼ中央に位置し、古くから中山道や美濃路などの主要街道が通る交通の要衝であったことから、東西の経済・文化の交流点として栄えるとともに、揖斐川水系の自噴地帯にあり良質で豊富な地下水に恵まれており、古くから「水都」と呼ばれ、現在も市内各所に自噴井があるなど、水と緑があふれています。

また、俳人・松尾芭蕉が「奥の細道」の旅を終えた地としても全国に知られており、今なお俳句文化が息づく、文化の薫り高いまちとなっています。

大垣市奥の細道むすびの地記念館

大垣市奥の細道むすびの地記念館は、紀行文「奥の細道」の解説をはじめ、松尾芭蕉の人となりや旅に生きた人生を紹介する「芭蕉館」、大垣の歴史や文化・芸術を築き上げた先賢の偉業を紹介する「先賢館」、大垣市と西濃地域の観光情報や全国の芭蕉関連施設を紹介する「観光・交流館」の3館と、大垣藩重臣・小原鉄心の別荘で、市指定文化財である「無何有荘大醒榭（むかゆうそうたいせいしゃ）」から構成されています。



国指定名勝 おくのほそ道の風景地 大垣船町川湊



おくのほそ道の風景地大垣船町川湊は、大垣市中心部の船町に位置し、揖斐川の支流水門川兩岸に川湊の趣が残る風景地です。松尾芭蕉は、元禄2年（1689）8月20日頃に大垣に来訪し、大垣の俳人と交流を重ねました。そして、9月6日、船で伊勢二見へと旅立つ際、大垣の俳人たちとの名残惜しさを「蛤のふたみにわかれ行秋ぞ」と詠み、『おくのほそ道』の結びとしました。

ユネスコ無形文化遺産
国重要無形民俗文化財

大垣まつり

大垣まつりは、城下町大垣に初夏の訪れを告げる祭礼です。新緑まばゆい城下町を、全13両の軸が華やかに巡行し、華麗な祭絵巻を繰り広げます。

また、大垣まつりは、370年余の伝統があり、平成27年3月に「大垣祭の軸行事」として国重要無形民俗文化財に指定、平成28年12月には「山・鉦・屋台行事」の1つとしてユネスコ無形文化遺産に登録されました。

